

保護者のみなさまへ

令和7年度もあとわずかとなりました。先日来年度の入園に伴う書類をお渡ししました。いよいよ、進級進学が近づいてきました。

本年度の施設関係者評価の保護者アンケートのご協力ありがとうございました。去る、11月7日(金)に保育関係者をお招きして当園の保育環境などについてご覧いただきました。保護者アンケート・保育者自己評価・保育関係者評価の結果は、市に報告する予定です。また、保護者アンケートをはじめとするこれらの報告は、4月になりましたらホームページにてアップします。合わせてごらんください。

保護者アンケートのご意見について下記の通り、青文字でお返事しておりますのでご覧ください。アンケート回答率40.0%でした。令和6年度は、51.6%でしたのでかなり下がっております。アンケートの結果はコドモンでアップしておりますので、確認をお願いします。

広く保護者のみなさまの評価やご意見を頂戴し、教育・保育の質の向上を図ってまいりますので、令和8年度も引き続き、ご理解とご協力をお願いいたします。

ご意見は、本文そのままに載せております。回答と合わせてお読みください。

①日々、出来る事も増えて、保育園に行くのが楽しいみたいです。自由に色んな遊びをさせて貰えて他のクラスのお友達とも遊べて楽しめているのが伝わってきます。保育園のご飯、めっちゃおいしいよ！今日は何を食べたよ！とよく教えてくれます。いつもありがとうございます。

②上の子から長くお世話になっています。5,6年前でしょうか。園の方針が変わった時に一度転園しようかと考えた事がありました。“自由にのびのび”と“放任”を履き違えていないだろうか。

行事の在り方もガラッと変わりました。正直、これが発表会？運動会？と思う事もありました。私の幼少期にマーチングなどをしていた運動会と全然違い戸惑いました。でもそれは私自身が保育園はこうあるべき、行事はこうあるべき、というものがずっと頭の中にあったんだと、植え付けられていたのだなと感じました。わが子がこども園でお世話になる中で、親の私も日々成長させてもらっています。それぞれ違うひとりひとりの子どもたちを認めて育んで下さって有り難いなといつも感じています。

③いまだに先生の顔と名前が一致せず、コミュニケーションが取りづらいと感じることがあります。また、先生の呼び方について、子供は先生のことを〇〇さんと呼びますが、保護者も同じように〇〇さんと呼んで良いのか、先生と呼ぶべきなのか、細かいことですが悩み、結果、先生に話しかけづらいことがあります。

◎こどもと同じように保護者のみなさまも職員のこと、〇〇さんとお呼びください。園長と副園長だけは、園の代表者としての責任を明白にするために『園長』『副園長』と呼んでくださると幸いです。既に敬称は付いておりますので、そのままの呼び方で構いません。また、話しかけづらさを感じさせてしまっていることに対しては申し訳ありません。なるべく保護者のおひとりおひとりとコミュニケーションがとれますように私たちも

努力してまいります。

④登園時、お部屋で過ごす場合は先生が近くにいるので話せるが、外遊びの時は近くにいないので、緊急連絡先の変更やお迎え時間が違うなどの連絡ができない。年少さん以上も必要な時だけ連絡ノートがあれば助かる。

◎ご迷惑をおかけして申し訳ございません。おっしゃるとおり特に朝の園庭での受け入れは、対応が手薄になりがちです。職員の業務は時間差勤務のシフト制ですので、朝は、2人で受け入れをしております。内1人は、受け入れのベランダ付近で対応することになっています。それを引き続き徹底して参ります。

◎345歳児(ひまわり・ゆり・すみれ)クラスの連絡ノートは、家庭からの連絡が書いてあってもなくても全て確認にしなければならず時間を要した反省から数年前より使っておりません。お手間をとらせますが、緊急なことや迎え時間の変更などは、口頭かコドモンでお伝えくださると助かります。ご理解とご協力をお願いします。

⑤子どもの成長を保育園に行きだしてから感じる事が多くあり、いろいろなことを教えてくださっているととても感謝しています。また保育者の方々がとても丁寧に優しく対応してくださり、生活ノートなどを通して園生活を楽しんでいるなと思っています。

⑥左右がわかる、字が読めるなど年長になったときには少し時間を作って他から来た子と就学時ある程度の足並みが揃うといい

◎『左右』については、0歳児(ばら組)クラスから着替えの時などに、私達保育士は、意図的に『みぎ』『ひだり』などの言葉を使い、着替えや食事の支援をしています。大人は小さなこどもに対して『こっち』や『あっち』の言葉を使いがちですが、より具体的な言葉を0歳の時から使うことで自然と生活の中に入ってくると考えます。お茶碗を持つ手、箸やスプーン持つ手などの右、左の言葉がけも同じです。教え込まなくても毎日の生活の中の大人の言葉がけや手助けが大きく影響します。特に、345歳児(ひまわり・ゆり・すみれ組)クラスは、園と家庭の両方で意識できるようにしていくとその理解度が早期に深まると考えます。家庭でも是非、生活のあらゆるシーンで『右』『左』の言葉がけをお願いします。

◎こどもは文字への関心や興味は、毎日の生活やあそびから自然と習得していきます。ただ、月齢差や本人の関心度で大きく違うのも確かです。担任は、最終年の5歳児(すみれ組)の個々の文字への関心や理解などはだいたい把握しています。だからカルタやカードゲームなどを豊富に揃え、文字への関心を高める取り組みを行っています。『5歳児の終わりごろにひらがなを読める』このような文言は保育所保育指針や認定こども園保育教育要領にもありません。しかし、文字への関心が深まるような遊びの仕掛けや玩具は、いつでも手に取れるところに置き、あそびに誘いながらひとりひとりの成長を促しています

⑦いつもありがとうございます。

⑧園の給食が和食中心の食事でもとても素晴らしいなと思います。家では中々野菜など食べてくれないので、園でバランスの良い食事を作って下さり感謝しています。職員の皆様が子どもをしっかり保育して下さいるので、安心して預けることが出来ています。いつもありがとうございます。

⑨担任の先生だけでなく、たくさんの先生と関わって成長してくれているように感じます。とてもありがたいです。要望としては、先生方のお顔が分かってもお名前が分からないので、分かる資料などがあると嬉しいです。

◎毎年入園時に、入園のしおりをお渡ししています。それに、職員の名前とクラスを明記していますので確認をお願いします。また、玄関ホールのドキュメンテーションの横に、職員の顔写真と名前のフレームを立てかけています。あわせてごらんください。名前が分からない時は、遠慮なくお聞きくださいね

⑩いつも先生方が優しい笑顔で迎えてくれて、子どもも安心して登園できております。

「早く保育園行こうよー！」と毎朝登園を楽しみにしており、本当にありがたく思っています！ありがとうございます。

おわりに

平成28年度から認定こども園として運営して参りました。27年度より、これまでの教育・保育方針やその内容について深い反省の元、協議を重ね『保育士主導ではない、こども主体の教育・保育』にその環境と方法を変換してきました。約10年が経とうとしています。保護者のみなさまの戸惑いや怒り、そしてご意見もたくさん頂戴してきました。今回で保護者アンケートは3回目ですが、回を重ねるごとに、『子ども主体の教育・保育』へのご理解とご賛同を感じありがたく存じます。来年度も012歳児(ばら・たんぽぽ・さくら組)における丁寧な育児担当制保育、345歳児(ひまわり・ゆり・すみれ組)の縦割編成によるこどもが主体の教育・保育を進めていきます。また、室内の発達に合った多種多様な遊びや玩具の充実と冒険的な園庭の環境は、引き続きグレードアップしていきます。

令和8年度もよろしくお願いいたします。

谷頭こども園 園長 金丸恵美子